

平成 22 年 5 月 17 日現在

研究種目：基盤研究（C）  
研究期間：2007～2010  
課題番号：19520101  
研究課題名（和文） 中世後期のヨーロッパ彩飾写本に見られる十字軍遠征の影響に関する研究  
研究課題名（英文） Study on influence of the Crusades in Late Medieval illuminated manuscripts  
研究代表者  
駒田 亜紀子（KOMADA AKIKO）  
実践女子大学・文学部・准教授  
研究者番号：00403866

研究代表者の専門分野：人文学  
科研費の分科・細目：分科 哲学 細目 美学・美術史  
キーワード：美術史

1. 研究計画の概要：本研究は、13 世紀後半にパリで成立した初の完訳版仏語聖書である『十三世紀フランス語聖書（*Bible française du XIIIe siècle*）』写本群を取り上げ、聖地ラテン国家滅亡後に西ヨーロッパで発展した彩飾写本に見られる十字軍遠征の影響を明らかにすることを目的とする。

(1) 同写本の制作・流通は比較的短期間に留まったものの、編纂地とされるパリを超えて、極めて特異な伝播形態をとった。中でも、十字軍君公の主要な出身地である現在の北フランスを中心とする地域との関わりが注目されるため、この地域由来のラテン語聖書写本との重点的な比較考察を行う。

(2) 挿絵図像ならびにテキスト上の関連が深い仏語版『世界年代記（古代史）』ならびにこれに類する年代記写本作品との比較考察。とくに年代記部分に十字軍遠征の記事を書き継いだ作品に注目する。

(3) エルサレム王国で活躍した（北）フランス出身の写本彩飾画家ならびにこの画家との様式的連関の深い画家の手になる、フランス語聖書写本の様式・図像学的考察を行う。

## 2. 研究の進捗状況

(1) については、研究 2・3 年度にわたって、重点的に写本所蔵機関における実地調査ならびに資料収集を行った。しかし、資料収集を通じて当初計画より様式的に関連する

作品数が多いことが判明したため、本研究が当初目的とした課題を遂行するためには、対象を広げつつ、最終年度以降にも継続的に調査研究を行う必要があると思われる。現時点では、特に、北フランス起源のラテン語聖書写本群、北ヨーロッパを活動拠点とした十字軍騎士団の一つであるドイツ騎士団由来のラテン語聖書写本、そしてパリ制作と推定されるものの挿絵彩飾の様式的出自が未解明のオクスフォード所蔵の『十三世紀フランス語聖書（新約聖書部分）』に注目し、パリと北方地方との様式的・図像学的連関を解明すべく、比較考察を継続中である。

(2) については、とくに初年度に、作品所蔵機関における実地調査・資料収集を重点的に行った。ただし、この作品については、挿絵彩飾の様式・図像学的起源、最末期の十字軍遠征に関する同時代的記録を含む年代記部分と写本の出自との関わりなどに関して、未解明の問題が山積している。この写本は、本研究の枠内における比較項として極めて興味深く重要な位置づけにありながらも、それ自体として別個に研究されるべき問題を含んでおり、現時点ではそこにまで踏み込むことは困難と予想される。

(3) については、とくに、研究 3 年度に発表した雑誌論文において、1280 年代初頭にパリで活躍した後に聖地のアッコに渡り現地でもフランス語聖書等の制作に携わった〈パリ・アッコの画家〉について、論じた。この画家がパリで制作したとされる、ニューヨーク所蔵の『十三世紀フランス語聖書』写本は、同画家がパレスティナで制作したフランス語聖書との図像学的連関を示すと同時に、この画家の北フランスに関わる様式的出

自を示唆するものと、現時点では結論付けられる。

3. 現在までの達成度：③やや遅れている。  
理由：上記項目(1)(2)にも記したように、研究計画当初に想定していた範囲より実地調査ならびにそれに基づく比較考察の範囲が拡大し、またそれらが提示する問題の射程も複雑な広がりを見せているため。

4. 今後の研究の推進方策：本課題最終年度の平成22年度においては、現時点でやや遅れている研究達成度に鑑み、これまでの実地調査に基づくまとめの考察の範囲を絞り、まずドイツ騎士団由来のラテン語聖書およびオクスフォード所蔵のフランス語新約聖書を優先し、さらに可能であれば北フランス起源の『十三世紀フランス語聖書』写本群について、現時点で可能な限りの伝播・流通に関する見解をまとめたい。十字軍遠征を背景とする『世界年代記写本』と聖書写本との影響関係については、改めて、来年度以降、問題の枠組みを仕切り直し精査した上で、研究を継続する必要があると思われる。

5. 代表的な研究成果  
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件)

1. 駒田亜紀子、『十三世紀フランス語聖書』  
(*Bible française du XIIIe siècle*) 彩飾写本研究：<パリ-アッコンの画家>帰属作品について、実践女子大学美学美術史学、第24巻、pp. (39)-(55)、2010年、査読・有(機関リポジトリに公開手続き中)
2. 駒田亜紀子、『十三世紀フランス語聖書』  
(*Bible française du XIIIe siècle*) 彩飾写本研究：最初期の作例について、実践女子大学美学美術史学、第23巻、pp. (39)-(53)、2009年、査読・有  
<http://ci.nii.ac.jp/author?q=%E9%A7%92%E7%94%B0%E4%BA%9C%E7%B4%80%E5%AD%90&count=&sortorder=>

[学会発表] (計1件)

1. 駒田亜紀子、中世フランス語聖書彩飾写本の地域的展開、新約聖書図像研究会(NTIS)、立教大学、2008年12月13日発表

[図書] (計 件)

[産業財産権]

○出願状況 (計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況 (計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

[その他]